

林野庁 近畿中国森林管理局

箕面森林環境保全ふれあいセンター・こだま通信



シンポジウムを開催しました。

シンポジウム「シカと森と人の葛藤」を平成25年2月23日、大阪市で開催しました。募集人員を大幅に上回る255名もの参加があり、ニホンジカの問題への関心の高さが伺われました。

近年、全国的にニホンジカが増加し、農林業被害だけでなく、ニホンジカの過度な採食によって森林生態系への悪影響を及ぼしています。その影響は、希少植物の減少、森林下層植生の衰退、生物多様性の低下、土壌の流出など多岐にわたっています。

シンポジウムでは、ニホンシカの生態、ニホンジカが及ぼす森林生態系への影響、全国各地のニホンジカ管理事例の紹介のほか、今年度策定した「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」のPR、大杉谷国有林を含む森林におけるニホンジカの管理のあり方を論議しました。

第1部では、麻布大学の高槻成紀教授から金華山でのニホンジカの植物群落への影響を例に、シカとはどういう生き物なのかなど、信州大学の瀧井焼子氏から、長野県におけるニホンジカの季節移動、季節移動するニホンジカの中には、約30kmも移動することなど、神奈川県自然環境保全センターの田村淳氏からは丹沢山地での柵を使ってニホンジカの食害から森林を守る取組など、三重県宮川森林組合の岡本宏之氏からは、バッチディフェンスの活用による広葉樹育成の取組など、(一財)自然環境研究センターの荒木良太氏からは大台ヶ原でのニホンジカ生息密度管理の取組などについて報告されました。

また、第2部では、大杉谷国有林森林被害対策指針紹介の後、名城大学日野教授をコーディネーターに「増えるニホンジカから森を守る」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、各パネラーが人と森の関係、森とシカの関係、シカと人の関係毎に意見を述べ、ニホンジカ対策には、優先順位を付け広域的な取組が必要であり、GISを利用した対策や行政の域を超えた地域一体となった取組が有効であることなど意見がありました。



近畿中国森林管理局長開催挨拶



パネルディスカッション

高槻市教員セミナーで「水源の森」ジオラマづくり

高槻市教研研究発表会において、京都教育大学 教授 山下宏文教授と近畿中国森林管理局箕面森林環境保全ふれあいセンター職員が講師となり、平成25年1月18日、高槻現代劇場207号室で、森林環境教育セミナーを開催しました。

山下教授から「社会科学習の最適化と教材の開発」と題して高槻市内の小学校教員を対象に講演が行われました。社会科における森林・林業の扱い方、箕面森林環境保全ふれあいセンターで開発した森林環境教育手引書(小学校編)と森林環境教育推奨事例集の活用について説明いただきました。

実習として「水源の森ジオラマづくり」を箕面森林環境保全ふれあいセンター職員が担当して指導を行いました。ジオラマづくりと手引書等の関連性など説明し、製作に入ると参加者は子どものように熱中して取り組み、各々自分だけの水源の森を仕上げていきました。参加した教員の方から「ジオラマづくり、すごく楽しかったです。子どもたちも楽しめると思います」「今日の実習は楽しく森林環境教育の入門としては、子どもたちにとっても興味をもって学習できる内容だと思いました」など感想があり、好印象を持っていただくことができました。参加者は64名とジオラマづくりに関心があったのか過去最高の参加者数となったとのことです。



森林環境教育セミナーの開催



「水源の森ジオラマづくり」の説明



「水源の森ジオラマづくり」制作中



「水源の森ジオラマづくり」完成

「オオクワガタの棲める森づくり」でボランティアによる補植を実施

箕面国有林、エキスポ'90みのお記念の森内の「オオクワガタの棲める森づくり」において、平成25年3月17日、NPO日本森林ボランティア協会の活動日に(株)ローソンの職員を招いてクヌギなどの苗木の植栽作業を実施しました。NPO日本森林ボランティア協会10名、(株)ローソン職員34名、(公社)国土緑化推進機構2名の参加で、箕面森林環境保全ふれあいセンターから2名が植栽の指導に参加しました。

ローソンは、店舗で「緑の募金」活動を行っており、全国で森林整備活動など展開しており、ちょうど今回の活動が1,000回目の活動となるとのことでした。

快晴で小春日和の暖かい日となり、苗木は、箕面市立萱野北小学校の児童らの手で育てられた苗200本とセラミック苗500本でクワや手作りの植穴掘機で楽しそうに植えていきました。参加者からは、「木を植えるのは楽しかった」「植えた木が、来年や将来にどうなっているか、時々見に来たい」などの声が聞かれ、これからも広く市民の方などに「オオクワガタの棲める森づくり」に参加していただき、市民参加による森づくりが広がっていくことを期待しています。



セラミック苗

水を吸う特殊なセラミックで育てた苗。植栽は、棒状の穴を開けた後に差し込めばよく、地拵えなしで植栽できることや植栽の能率が良いことから森林整備のコスト削減に期待されている。



快晴の中で植栽(補植)



セラミック苗を植える



大きく育てと見守りながら



幼い兄弟で協力しながら植え付ける

箕面国有林の植物紹介
エドヒガン（学名：Prunus pendura）

エドヒガンは、サクラの1種です。サクラとしては、ソメイヨシノが有名ですが、ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンから生まれた園芸種です。平凡社「日本の野生植物」木本 I によれば、本州・四国・九州に自生し、山野に生える落葉高木で、幹の高さは、20m、径1m、ときに3m以上となるそうです。花期は4月です。

「北摂」大阪府北部、兵庫県南東部の里山では、エドヒガンが群生しているところもあり、4月には、エドヒガンの花が楽しめます。兵庫県川西市では、猪名川上流域のエドヒガンの群落を、天然記念物に指定しています。

箕面の山々でも、エドヒガンを楽しむことができ、ふれあいセンターの活動地であるエキスポ'90みのお記念の森内の「オオクワガタの棲める森づくり」でも、エドヒガンを植栽しています。

また、隣接地には、エドヒガンの大木も見られ、もうすぐ花が咲きます。公園などでソメイヨシノのお花見もいいですが、ぜひ、エドヒガンのお花見もお勧めです。

今春は、是非、箕面の山へエドヒガンを見に来てください。



第2回運営推進懇談会

平成25年3月4日（月）近畿中国森林管理局会議室で、第2回運営推進懇談会を開催しました。

運営推進懇談会は、当ふれあいセンターの運営に関して、学識経験者、NPO法人及びマスコミ関係者からの意見や要望を反映させた取組を推進するために設置しています。

第2回懇談会では、平成24年度の活動実績及び平成25年度の活動計画（案）について説明し、委員との意見交換を行いました。

委員からは、①森林環境教育手引書の活用事例を収集し、森林環境教育手引書を活用している学校と協力していくことが必要、②ふれあいセンターの取組を近畿中国森林管理局庁舎1階の展示ギャラリーで紹介したほうが良い、③デジカメ選手権については、応募の告知を早く実施する、入選作品の展示を春に行う、著名人を前面に出し参加者がより興味を持つ取組が必要などの意見がありました。



エドヒガン

みどり生き生きみのお生き生き体験フェア

開催日：4月7日（日） 午前10時～午後4時 雨天中止
 場所：千里中央 せんちゅうパル 北広場
 内容：体験コーナーで各団体の紹介や木工教室など
 森林環境保全ふれあいセンターは、活動紹介や「水源の森ジオラマづくり」を開催します。

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
 箕面森林ふれあい推進センター（4月1日より組織名称変更）

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、主に京都、大阪の都市周辺の国有林野をフィールドとして、NPO、ボランティア、地域住民等による自主的な森林づくり、里山の整備、自然再生活動、森林環境教育などへの技術指導等の支援に取り組んでいます。



TEL:06-6881-2013/FAX:06-6881-2055

URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/index.html

〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局3F